

### 1 PLAN(目的・概要)

政策名	国際競争力及び産業競争力の強化と港湾物流の環境変化に対応した港づくり	30年度事業・施策評価結果		責任者	企画調整室 計画担当課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	航路体系に係る検討			連絡先	052-654-7911	
対象(誰・何を)	名古屋港内の航路			連携課	企画担当・海務課	
目的	意図(どうい う状態にしたいか)	より安全で効率的な航路体系となるよう調査・研究を行います。			事業 期間	～継続
概要	船舶の大型化や貨物動向に対応した将来の航路のあり方を、海事関係団体との意見交換等を行いながら検討します。			根拠 法令等	港湾法第3条の3	
令和元年度の実施予定	西航路の航行安全性について検証を行い、海事関係団体等の意見の聴取を行います。			実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
				関連 シート		

### 2 DO(実施)

令和元年度に実施した内容・結果	東航路の管制基準について海事関係団体との意見交換を行いました。また、西航路の航行安全性について検証を行いました。					
コスト	単位	29年度	30年度	元年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	10,584	8,424	7,920	8,976	
人件費	千円	-	-	8,257	8,257	
合計	千円	10,584	8,424	16,177	17,233	

### 3 CHECK(検証)

成果目標名		29年度	30年度	元年度	中間目標	5	成果目標の説明・目標値の考え方	外部要因
海事関係団体との意見交換等の回数 (単年度管理型)	目標			2		2	将来の航路体系に関し、海事関係団体との意見交換会やヒアリングを行う回数	
	実績	0	2	2				
	事業進捗状況(元年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値とお 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	将来の航路体系に関し、海事関係団体と意見交換を行い、目標値通りの成果を達成することができました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 関係者が多岐にわたるため、港湾管理者としての考えを示したうえで、意見交換を行い、合意形成を図っていく必要があります。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○						
有効性	事務事業の目的は、施策達成に貢献するか?	○ より安全かつ円滑に入出港できる航行環境の実現は、物流の効率化に必要です。						
	期待どおりの成果が得られているか?	○						
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 平成30年度の成果を活用して検討を進めました。						

### 4 ACTION(取組)

施策評価結果	2年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	名古屋港を利用する船舶にとって、より安全で使いやすい港としていく必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題			2年度以降の取組
施設整備と規制緩和等のハード・ソフトの両面から検討を進める必要があります。			利用者のニーズを把握しながら、関係者と連携して船舶交通環境の改善に資する取組について検討を進めます。